

「十二国記」シリーズ 小野不由美(講談社)

「本のタイトルは聞いたことがあるんだけど…」「友達に読んでた！」アニメでやってたよね。」という人も多いのでは？気になっている人も知らなかった人もぜひ、読んでみてください。とにかくおもしろくてやめられなくないです！個性的な登場人物、胸が熱くなるような出会いと冒険、海を越えた向こう側には、想像を絶する世界が…。十二の国々での物語に引き込まれていくうちに、強く生きるといふこと、人に優しくするといふことを自然と考えているあなたがいると思います。「十二国記」シリーズとして、10冊が出ていますから、全巻判別してみてください。(H)

「月の影 影の海」(上・下)、「風の海 迷宮の岸」〜と続きます。

ついに新しい図書館がオープンしました！これをきっかけに中高生向けのブックリストを発行します。今回は編者の独断と偏見ですが、今後はみなさんのご意見を取り入れていきたいと思えます。このブックリストのタイトルも募集します(〃)。おススメの本、取り上げてほしい本がある人は、カウンターのYAご意見箱に投書してください。紹介文を考えてくれる人も大歓迎です。よろしくおねがいいたします。



発行 稲城市立中央図書館
稲城市向陽台 4-6-18
電話 042(378)7111



稲城市立図書館YA

読んでみてね
BOOK LIST

「きみの友だち」重松 清(新潮社)

主人公 憲美は交通事故に遭って以来、松葉杖なしで歩くことができない。事故に遭ったのは、友達の子供…。友達を責めた結果、「みんな」が敵に回った。そんな憲美にとって、唯一の友だちといえる由香、憲美の弟のフンとフンの友だちであり、ライバルでもあるモト、そして学校の同級生たち。些細なことでケンカして、仲直りして。友達だけとライバルで…。友だち関係ってムズカシイけど、それでも「友だちっていいな」って、心が温かくなる本です。この夏おススメの一冊。(Y)

* 重松さんの前作「その日のまえに」(文芸春秋)は、課題図書(高校生の部)に選定されています。

「思春期病棟の少女たち」スザンナ・ケイセン(草思社)

「17歳のカルテ」という映画を知っていますか？この本は、アンジェリーナ・ジョーがアカデミー助演女優賞を受賞した映画の原作です。著者スザンナは精神のバランスを崩して自殺を思い、2年近い入院生活を送ります。診断された病名は「境界性人格障害」。でも彼女は言います。「境界の内こころとこころへ行くのは、簡単よ」と。ウィ/ナ・ライダーが自分で主演・製作総指揮の二役を務めるほどに惚れこみ、映画化した原作。「普通って何？」「異常って何？」と思ったことがある人は、ぜひ読んでみてください。映画のDVDも所蔵しています。(S)



「穴」ルイス・サッカー(講談社)

皆さんは、どれ位の深さまで穴を掘ったことがありますか？この作品の主人公のスタンリー少年は、木めのいじめられっ子。無実の罪で、砂漠の真ん中の少年院「グリーン・レイク・キャンプ」に送られてしまいます。それもこれも全ては我が家の伝統の「運の悪さ」だと諦め、少年院での生活を送りますが、そこでの矯正労働はただひたすら「穴」を掘ることだったので。一体何のために「穴」を掘っているのか？そこには何が隠されているのか…？恐ろしい大人たちの目を盗んで、スタンリーが仲間と共に秘密を探っていくと…。アメリカで児童文学賞を受賞し、フェイスニー映画にもなった作品です。読み終わったら、ぜひ映画も見てください。(T)

「Street soccer」下田 哲組/著
アテマール・マリーニョ/テクニカルアドバイザー(東邦出版)

「サッカー上達の秘訣 遊びを極める」のサブタイトルの通り、サッカーを始めた人たちが知りたい、獲得したいワザを大きな絵で説明してあります。ワールドカップでサッカーに目覚めた人にもおススメ。

「種まく子供たち」佐藤津子/編(ポプラ社)

「命」の大切さ、尊厳が声高に言われるようになって、日々事件や事故が起こっています。そのほとんどは、大人の責任が大きいように思いますが、残念ながら10代の人たちの中にも、自ら命を絶ってしまう人や、身近な人を傷つけてしまう人も…。この本は、みんなそれぞれに悩みや苦しみを抱えているということ、感じられる一冊です。自分の病気に戸惑い、悩む本人やその家族の気持ちが痛いほど感じられます。特別な人の話、よくある病気記、と決めつけてしまわず、手にとってみてください。

コミックには、こんな本があります
「MONSTER」滝沢直樹(小学館)
「あしたのジョー」ちばてつや(講談社)
「天空の城ラピュタ」宮崎駿(徳間書店)

